



平成 21 年 11 月 13 日

各 位

会社名 ダイナパック株式会社
代表者名 代表取締役社長 飯田 真之
コード番号 3947
(東証・名証第 2 部)
問合せ先 執行役員経理部長 山田 良文
電話番号 (052) 971-2651

特別損失および過年度法人税等の計上に関するお知らせ

当社は、平成 21 年 12 月期第 3 四半期連結会計期間において、下記のとおり特別損失および過年度法人税等を計上しますので、お知らせいたします。

記

1. 投資有価証券評価損の計上

「その他有価証券」に区分される保有有価証券のうち、時価が著しく下落し、その回復が困難であると認められたものについて、平成 21 年 12 月期第 3 四半期において減損処理による投資有価証券評価損を計上いたします。

(1)平成 21 年 12 月期第 3 四半期における投資有価証券評価損

	単体	連結
(A)平成 21 年 12 月期第 3 四半期会計期間(平成 21 年 7 月 1 日から平成 21 年 9 月 30 日まで)の投資有価証券評価損の総額(=イ-ロ)	42 百万円	42 百万円
(イ)平成 21 年 12 月期第 3 四半期累計期間(平成 21 年 1 月 1 日から平成 21 年 9 月 30 日まで)の投資有価証券評価損の総額	337 百万円	337 百万円
(ロ)直前四半期(平成 21 年 12 月期第 2 四半期)累計期間(平成 21 年 1 月 1 日から平成 21 年 6 月 30 日まで)の投資有価証券評価損の総額	295 百万円	295 百万円

※四半期における有価証券の評価方法は洗替え方式を採用しております。

※当社の決算期末は 12 月 31 日です。

○純資産額・経常利益額・当期純利益額に対する割合

	単体	連結
(B)平成 20 年 12 月期末の純資産額	30,658 百万円	26,412 百万円
(A/B×100)	0.14%	0.16%
(イ/B×100)	0.96%	1.12%
(C)最近 5 事業年度の経常利益額の平均額	915 百万円	1,007 百万円
(A/C×100)	4.65%	4.23%
(イ/C×100)	32.27%	29.32%
(D)最近 5 事業年度の当期純利益額の平均額	291 百万円	228 百万円
(A/D×100)	14.59%	18.6%
(イ/D×100)	101.21%	129.07%

(注) 最近に終了した事業年度の経常利益および当期純利益が 10 億円未満のため、経常利益および当期純利益は最近 5 事業年度の平均値としております。(赤字の事業年度はゼロにて計算)

2. 事業再編損の計上

当第 3 四半期連結累計期間において、連結子会社である日本ハイパック(株)の名古屋工場および連結子会社である大日本紙業(株)の大府工場を閉鎖し、新工場であるダイナパック(株)みよし事業所へ業務を移管するなど中京地区段ボール事業の再編成を行っております。

日本ハイパック(株)名古屋工場および大日本紙業(株)大府工場の閉鎖の際に発生した有形固定資産の撤去・解体作業などによる固定資産除却損、有形固定資産の処分などによる固定資産売却損およびダイナパック(株)みよし事業所の開業時の諸費用などを事業再編損として 380 百万円計上しております。

3. 過年度法人税等の計上

当第 3 四半期連結累計期間において、過年度法人税等を 134 百万円計上しております。

これは、当社が国税当局による税務調査を受けた際に、処理の方法で当社と当局との間で見解の相違点があり、当局より指摘を受けたことによるものであります。

なお、現段階では最終的な追徴税額についての決定はしておりませんが、当社としては当局の指導どおり修正申告を行う予定でありますので、指摘内容の詳細について検討した上で納付すべき追徴税額を算出し過年度法人税等として概算計上したものであります。

4. 今後の見通し

平成 21 年 12 月期通期の連結業績予想および個別業績予想につきましては、上記のとおり過年度法人税等を計上したものの、事業再編損の計上が当初の予定を下回っているため、平成 21 年 8 月 6 日付で公表しました「業績予想の修正に関するお知らせ」からの変更はありません。

なお、業績予想の修正が必要になった場合につきましては速やかに公表いたします。

以上